

敦賀らしい魅力的な 中心市街地を目指します

昨年策定し、12月に内閣総理大臣の認定を受けた「敦賀市中心市街地活性化基本計画」。

「敦賀のまちはどう変わるの?」「いつまでに行うの?」...

今月号では、計画の中身をご紹介します。

1 計画の目指すもの

計画を紹介する前に...

中心市街地の活性化ってどういうこと?
人口や商店が減ってしまった敦賀市の中心市街地を、再び元気にすることです。

なぜ中心市街地を活性化させる必要があるの?
中心市街地は、これまで、市の発展の中で中心的な役割を果たしてきたことから、歴史や文化、伝統が息づく場所です。まちの魅力を高めていくために、この財産を活用していくことは重要です。
また、郊外への人口流出は、新たなインフラ整備などで、市の財政が圧迫されます。限られた財源の中、住みやすいまちをつくっていくためにも、福祉や金融、公共施設などの中心部の都市機能を活かした「コンパクトなまちづくり」が求められています。

中心市街地に賑わいを取り戻すため、今回の計画では、「港都つるが交流文化の再生と創造」をキーワードに、2つの基本方針を立てました。

1つ目は、港町の歴史を活かした「集客拠点づくり」と「魅力的な景観づくり」です。

古い建物が現存し、港町の風情が感じられる「舟溜り地区」に着目。新たな観光拠点として、重点的な整備を計画しています。

2つ目は、商店街を軸とした「新たな回遊ルートづくり」です。

集客拠点の効果を市街地全体に広げていくため、これまでの回遊ルート（敦賀駅→氣比神宮→金ヶ崎）を拡大。交通網の整備や案内板の設置、商店街の活性化などを行い、舟溜り地区を含めた、新しい回遊ルートを作っていきます。

新しい回遊ルート

新しい集客拠点、魅力的な景観づくり

2 計画の期間と目標

計画期間は、平成21年12月～平成27年3月までの5年4カ月です。また、活性化の状況を把握するため、次の目標を設定しています。

指標	目標①		目標②	
	観光施設の年間入込客数	歩行者・自転車通行量(市街地内3地点)	年間小売販売額(市街地内5商店街)	【参考指標】
現況値	84万7,500人	2,859人/日	111億8,200万円	
目標値(H26年)	89万1,900人 約5%UP	3,150人/日 約10%UP	112億円 現状維持	

3 進めていく事業

今回の計画には、活性化のための61の事業が盛り込まれています。その中から、主な事業を紹介しています。

なお、すでに実施されている事業で、今後続けていく事業も計画内に入っています。

●…行っていく事業

港町の風情、食を楽しむエリアに!

中心市街地共通

- 案内サインの設置
- 観光ガイドの養成
- 歩道のバリアフリー化

まちなか居住関連

- まちなか住居事業
- 地域優良賃貸住宅の整備

氣比神宮周辺エリア

- 氣比神宮の杜フェスタの開催
- 街あかりの創出

まちなか回遊の拠点エリアに!

商店街

- モニュメント像イルミネーション
- 百縁笑店街の開催
- 店舗開業支援
- 創業・起業の促進
- 各種イベントの支援

JR敦賀駅周辺エリア

- 駅舎の改築
- 広域連携大学の拠点整備
- 駅前ふれあい市の開催

JR敦賀駅

都市機能が集積する玄関口エリアに!

舟溜り地区

舟溜り地区は、将来こんなまちなみに!

博物館通りの景観イメージ

舟溜り側からの景観イメージ

敦賀港周辺エリア

- 赤レンガ倉庫の活用
- 人道の港敦賀の推進
- 鉄道展の開催

【舟溜り地区関係】

- お魚通り・博物館通りの景観形成
- 博物館建物修復
- つるが大漁市場の整備運営
- 晴明の朝市の開催
- 敦賀酒造の保全活用



4 みんなが力を合わせて魅力的な中心市街地へ

今回の計画は、商工会議所やまちづくり会社を中心となって組織された「中心市街地活性化協議会」において検討や協議を行い、その意見を踏まえて、市が策定したものです。

1月25日には、認定後初めての協議会が開催されました。商店街関係者や市民団体などから、事業の進捗よく状況や今後の目標などが報告され、各々が連携し、力を合せながら計画を進めていくことを確認しました。

市では今後、各事業主体の方、そして市民の皆さんと一緒に、敦賀らしい魅力的な中心市街地を目指していきますので、皆さんの積極的なまちづくりへのご参加をよろしく願います。

計画書の全体と概要版は、市ホームページ(www.city.tsuruga.lg.jp)がご覧いただけます。

一度ご覧いただこう。